平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月31日

上場会社名　日本化薬株式会社　　上場取引所　東
コード番号　4272　URL　http://www.nipponkayaku.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 萬代　晃
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員　グループ経理本部経理部長　(氏名) 下山　政行　TEL 03-3237-5270

四半期報告書提出予定日　平成25年8月8日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	37,063	―	5,382	―	6,418	―	4,133	―
25年3月期第1四半期	37,466	1.9	6,056	14.0	6,636	20.6	3,984	38.9

(注)包括利益　26年3月期第1四半期　6,505百万円　(―%)　25年3月期第1四半期　3,372百万円　(12.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	22.80	22.79
25年3月期第1四半期	21.98	21.92

当社は、平成25年3月期より連結決算日を5月31日から3月31日に変更いたしました。これに伴い、当第1四半期(平成25年4月1日から平成25年6月30日)と、比較対象となる前第1四半期(平成24年6月1日から平成24年8月31日)の期間が異なるため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。(前第1四半期は、当社及び5月決算であった連結対象会社は平成24年6月1日から平成24年8月31日を、3月決算であった連結対象会社は平成24年4月1日から平成24年6月30日をそれぞれ連結対象期間としておりました。)

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	231,520	164,927	66.7
25年3月期	224,705	160,454	66.9

(参考) 自己資本　26年3月期第1四半期　154,392百万円　25年3月期　150,237百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	―	10.00	―	10.00	20.00
26年3月期	―				
26年3月期(予想)		10.00	―	10.00	20.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	76,300	―	9,100	―	9,400	―	5,300	―	29.24
通期	162,000	―	19,500	―	20,000	―	12,000	―	66.21

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

前連結会計年度は、決算期の変更により、平成24年6月1日から平成25年3月31日までの10ヶ月間となっております。このため、対前期及び前年同四半期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	182,503,570 株	25年3月期	182,503,570 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	1,258,712 株	25年3月期	1,247,305 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	181,247,002 株	25年3月期1Q	181,287,041 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の実績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報・・・・・・・・・・・・・・・・・２

(1)　経営成績に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
(2)　財政状態に関する説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
(3)　連結業績予想などの将来予測情報に関する説明・・・・・・・・４

２．四半期連結財務諸表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

(1)　四半期連結貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
(2)　四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書・・・・７
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
(3)　四半期連結財務諸表に関する注記事項
（継続企業の前提に関する注記）・・・・・・・・・・・・・・９
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）・・・・９
（セグメント情報等）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

１．当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	売上高（百万円）	営業利益（百万円）	経常利益（百万円）	四半期純利益（百万円）	１株当たり四半期純利益（円）
平成26年３月期第１四半期	37,063	5,382	6,418	4,133	22.80
（参考）前年同一期間 ※１	38,348	5,275	5,378	2,775	15.31
調整後増減率 ※１	△3.4%	2.0%	19.3%	48.9%	48.9%
平成25年３月期第１四半期 ※２	37,466	6,056	6,636	3,984	21.98

（単位：百万円）

	機能化学品事業		医薬事業		セイフティシステムズ事業		その他	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益
平成26年３月期第１四半期	16,668	2,407	12,649	2,990	6,229	1,238	1,515	206
（参考）前年同一期間 ※１	18,801	3,604	12,395	2,203	5,127	739	2,023	296
調整後増減率 ※１	△11.3%	△33.2%	2.1%	35.7%	21.5%	67.4%	△25.1%	△30.4%
平成25年３月期第１四半期 ※２	18,901	3,934	12,111	2,647	5,052	771	1,399	144

※１　（参考）前年同一期間は、当第１四半期連結累計期間（平成25年４月１日から平成25年６月30日）に対応する前年の同一期間（平成24年４月１日から平成24年６月30日）であります。
調整後増減率については、「前年同一期間」との比較で記載しております。
（前年同一期間において、当社及びすべての連結対象会社は平成24年４月１日から平成24年６月30日までを連結対象期間としております。）

※２　平成25年３月期第１四半期は、当社及び５月決算であった連結対象会社は平成24年６月１日から平成24年８月31日までを、３月決算であった連結対象会社は平成24年４月１日から平成24年６月30日までを、それぞれ連結対象期間としておりました。

以下、「前年同一期間」との比較で記載しております。

当第１四半期連結累計期間（平成25年４月１日から平成25年６月30日まで）の世界経済は、欧州では財政金融問題が鎮静化しているものの低迷が続き、中国では景気減速懸念を抱えつつ緩やかに成長しました。米国では住宅などの個人消費が堅調であり、回復基調を維持しています。日本経済は、昨年12月の政権交代以降、金融政策への期待を背景として円安・株高が進行し、景気回復の兆しが見られたものの、電気料金の値上げ、原材料価格の上昇など国内景気の下振れ懸念があることから、依然として先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは本年度よりスタートさせました新中期事業計画“***Challenge100A！***”の成長シナリオと中長期重点課題に取り組み、重点事業への経営資源の最適配分、既存事業の用途拡大、海外展開の強化に加え、収益体質の強化を目指し、一層のコストダウンを推進しました。

この結果、当第１四半期連結累計期間の売上高は、医薬事業、セイフティシステムズ事業が前年同一期間を上回りましたが、機能化学品事業などが前年同一期間を下回ったことにより、370億６千３百万円と前年同一期間に比べ12億８千４百万円（3.4%）減少しました。

営業利益は、原価率の改善により、53億８千２百万円と前年同一期間に比べ１億６百万円（2.0%）増加しました。

経常利益は、円安による為替差益などにより、64億１千８百万円と前年同一期間に比べ10億３千９百万円（19.3%）増加しました。

四半期純利益は、41億３千３百万円と前年同一期間に比べ13億５千７百万円（48.9%）増加しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

【機能化学品事業】

売上高は166億６千８百万円と前年同一期間に比べ21億３千２百万円（11.3%）減少しました。

機能性材料事業は、半導体封止材用エポキシ樹脂、紫外線硬化型樹脂、フィルム関連製品が前年同一期間を下回りました。機能性材料事業全体では前年同一期間を下回りました。

デジタル印刷材料事業は、インクジェットプリンタ用色素が産業用途は伸長しましたが、コンシューマー用途が停滞したため前年同一期間を下回りました。感熱顕色剤は前年同一期間を下回りました。デジタル印刷材料事業全体では前年同一期間を下回りました。

色材事業は、国内向け紙用染料、繊維用染料が低迷し前年同一期間を下回りましたが、中国を中心とした海外向けが伸長したため事業全体では前年同一期間を上回りました。

触媒事業は、顧客の触媒交換時期の谷間であったため、前年同一期間を下回りました。

ポラテクノグループは、楕円偏光板が伸長したため前年同一期間を上回りました。

セグメント利益は24億７百万円となり、前年同一期間に比べ11億９千５百万円（33.2%）減少しました。

【医薬事業】

売上高は126億４千９百万円と前年同一期間に比べ２億５千４百万円（2.1%）増加しました。

国内向け製剤は、「カルボプラチン点滴静注液NK」「パクリタキセル注NK」「ビカルタミド錠NK」などの抗がん薬が伸長したことに加え、昨年12月に発売した新製品「アナストロゾール錠NK」（抗がん薬）が売り上げに寄与し、前年同一期間を上回りました。「エキセメスタン錠NK」（抗がん薬）「グラニセトロンNK」（制吐剤）「メタストロン注」（放射性医薬品）は前年同一期間を下回りました。国内向け製剤全体では前年同一期間を上回りました。

輸出は、エトポシド類（抗がん薬）が前年同一期間を上回りましたが、ブレオ類（抗がん薬）が前年同一期間を下回りました。輸出全体では前年同一期間を上回りました。

国内向け原薬は、醗酵品原料は前年同一期間を上回りましたが、医薬品原料が前年同一期間を下回りました。国内向け原薬全体では前年同一期間を下回りました。

診断薬は、前年同一期間を上回りました。

セグメント利益は29億９千万円となり、前年同一期間に比べ７億８千６百万円（35.7%）増加しました。

【セイフティシステムズ事業】

売上高は62億２千９百万円と前年同一期間に比べ11億１百万円（21.5%）増加しました。

国内でのエコカー補助金終了による需要減によりエアバッグ用インフレータは前年同一期間を下回りました。

北米での自動車販売の回復による需要拡大や、新興国での自動車安全部品への需要拡大などによりシートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ、スクイブは前年同一期間を上回りました。

セグメント利益は12億３千８百万円となり、前年同一期間に比べ４億９千８百万円（67.4%）増加しました。

【その他】

売上高は15億１千５百万円と前年同一期間に比べ５億７百万円（25.1%）減少しました。

アグロ事業は、国内は前年同一期間を下回り、輸出は前年同一期間を上回りました。全体では前年同一期間を下回りました。

不動産事業は、前年同一期間を下回りました。

セグメント利益は２億６百万円となり、前年同一期間に比べ９千万円（30.4%）減少しました。

(2)　財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は2,315億２千万円となり、前連結会計年度末に比べ68億１千４百万円増加しました。主な増加は有形固定資産27億８千９百万円、棚卸資産25億７千８百万円、現金及び預金21億５千５百万円、投資有価証券18億４千２百万円であり、主な減少は受取手形及び売掛金18億６千４百万円であります。

負債は665億９千２百万円となり、前連結会計年度末に比べ23億４千１百万円増加しました。主な増加は短期借入金30億７千２百万円、支払手形及び買掛金12億７千８百万円、預り金(流動負債その他に含む)９億６千９百万円であり、主な減少は長期借入金16億６千１百万円、未払費用(流動負債その他に含む)８億６千３百万円、未払法人税等６億９千６百万円であります。

純資産は1,649億２千７百万円となり、前連結会計年度末に比べ44億７千２百万円増加しました。主な増加は四半期純利益41億３千３百万円、為替換算調整勘定11億８千７百万円、その他有価証券評価差額金６億５千万円であり、主な減少は配当金の支払18億１千２百万円であります。

(3)　連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、世界経済は米国では引き続き堅調に推移する一方、中国や新興国の成長スピードの鈍化、ユーロ圏の景気後退が懸念されます。国内経済は民需の拡大を背景に緩やかな回復が期待されます。当社グループは事業環境の変化に対応できる強固な収益体質を構築するとともに、環境・省エネルギー関連材料や医薬バイオシミラーの研究開発の促進など新たな成長市場への展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、平成26年３月期第２四半期(累計)及び通期の業績予想につきましては、平成25年５月９日に公表いたしました予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表
(1)　四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,120	28,276
受取手形及び売掛金	51,209	49,345
電子記録債権	－	461
有価証券	14,361	13,868
商品及び製品	19,542	21,979
仕掛品	2,072	2,057
原材料及び貯蔵品	7,998	8,154
その他	10,445	10,024
貸倒引当金	△197	△198
流動資産合計	131,553	133,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,367	34,717
機械装置及び運搬具（純額）	16,689	18,857
その他（純額）	16,126	16,398
有形固定資産合計	67,183	69,973
無形固定資産		
のれん	1,135	1,031
その他	2,765	2,707
無形固定資産合計	3,901	3,739
投資その他の資産		
投資有価証券	19,878	21,720
その他	2,070	2,017
貸倒引当金	△22	△21
投資その他の資産合計	21,926	23,716
固定資産合計	93,012	97,429
繰延資産	139	120
資産合計	224,705	231,520

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,108	16,386
短期借入金	6,683	9,755
未払法人税等	2,378	1,682
その他	15,687	15,962
流動負債合計	39,857	43,787
固定負債		
長期借入金	9,625	7,964
退職給付引当金	951	504
負ののれん	211	174
その他	13,605	14,163
固定負債合計	24,394	22,805
負債合計	64,251	66,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	17,265	17,265
利益剰余金	115,205	117,538
自己株式	△851	△866
株主資本合計	146,552	148,869
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,343	3,993
為替換算調整勘定	341	1,528
その他の包括利益累計額合計	3,685	5,522
少数株主持分	10,216	10,534
純資産合計	160,454	164,927
負債純資産合計	224,705	231,520

(2)　四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年６月１日 至　平成24年８月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
売上高	37,466	37,063
売上原価	21,095	20,658
売上総利益	16,370	16,404
販売費及び一般管理費	10,314	11,021
営業利益	6,056	5,382
営業外収益		
受取利息	17	13
受取配当金	395	216
負ののれん償却額	38	37
持分法による投資利益	94	159
為替差益	－	577
保険配当金	191	－
その他	247	222
営業外収益合計	984	1,226
営業外費用		
支払利息	55	51
為替差損	210	－
その他	138	139
営業外費用合計	404	190
経常利益	6,636	6,418
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	59	170
減損損失	－	63
投資有価証券評価損	5	0
特別損失合計	65	233
税金等調整前四半期純利益	6,571	6,184
法人税、住民税及び事業税	1,729	1,241
法人税等調整額	504	484
法人税等合計	2,233	1,726
少数株主損益調整前四半期純利益	4,337	4,458
少数株主利益	353	325
四半期純利益	3,984	4,133

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　平成24年６月１日 至　平成24年８月31日）	当第１四半期連結累計期間 （自　平成25年４月１日 至　平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	4,337	4,458
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	616	649
為替換算調整勘定	△1,580	1,396
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	△965	2,047
四半期包括利益	3,372	6,505
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,143	5,970
少数株主に係る四半期包括利益	229	534

(3)　四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

Ⅰ 前第１四半期連結累計期間（自　平成24年６月１日　至　平成24年８月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	機能化学品事業	医薬事業	セイフティシステムズ事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	18,901	12,111	5,052	36,066	1,399	37,466	－	37,466
セグメント間の内部売上高又は振替高	40	－	－	40	20	60	△60	－
計	18,942	12,111	5,052	36,106	1,420	37,527	△60	37,466
セグメント利益	3,934	2,647	771	7,352	144	7,497	△1,440	6,056

（注）１　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額△1,440百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,445百万円、セグメント間取引消去４百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第１四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	機能化学品事業	医薬事業	セイフティシステムズ事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	16,668	12,649	6,229	35,547	1,515	37,063	－	37,063
セグメント間の内部売上高又は振替高	27	－	－	27	25	53	△53	－
計	16,696	12,649	6,229	35,575	1,541	37,117	△53	37,063
セグメント利益	2,407	2,990	1,238	6,635	206	6,841	△1,459	5,382

（注）１　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでおります。

２　セグメント利益の調整額△1,459百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,465百万円、セグメント間取引消去５百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。